



追水気



特別
A5
1819



解
5
1819



車の魚乃水を乞柄の輝り
魚を吐く水皆是乃美の
外より子も幾やういふ身も
山に依りて今如朝露今に
凡情より倦む子睡りて
手取れんや、臨みて昔より
る謝ありし似たり玩籍
何れか一標乃表紙或いと



考

まみ垣を原す御
首を伊余道化と云ふ乃内由
故るすこし一宮流より
情吹の味を追く今予
意し一宮と一宮一佳
乃乃斑下を求む信
若の月乃うやく若を掛ひ
おこつ路のく流なるの御

二

ふかき
乱し
美や
而
作
可
會
凡

了んごころり歌也終乃所のほく
あるふう〜みり小、蜂のち
一層ふく坐うよ情を尋いで
四五の逸乃群切早の逸を
了んごころり歌也と系ナリ

晴冬也

半晴后

法と稿

補陀落舟ぐんまの

どんぞいし伊まのり

午のまん中ほ〜と

し〜ま〜ま〜ア〜

大勢のしづか

いさよとておまへ

鬼わりの飯屋のけしき

気まぐれのこね

いそよとておまへ

珍々書

四

珍々書

あまのこ

日の光

送別

降き



妖
俗
乃
あり

増
髪

れ

あ
ま

ゆ
き



我
思

五

蓮

乃

心

言
水

頬

乃
心

奴

乃
心



檢校勾當衆堂衆分城防都方帳無官之平座春夏兩度
 洛高倉清壽庵尔集會而職神祠其夜來柳瓶
 供御莊嚴結構妙音琵琶響渾々艶字磊々剪々
 曉天今無圖畫而題余云寔以不助音咄口一句嘔出
 云爾

馬羽玉の

くろや

吠
 中
 く



陰花堂

晚山

積塔會

土為

久保柿三ツ

長ノ市

高々

長



白尾鞭石

お

猫丸

あつ乃



うさぎ

あつ乃

と

張果亭

壺
張果亭

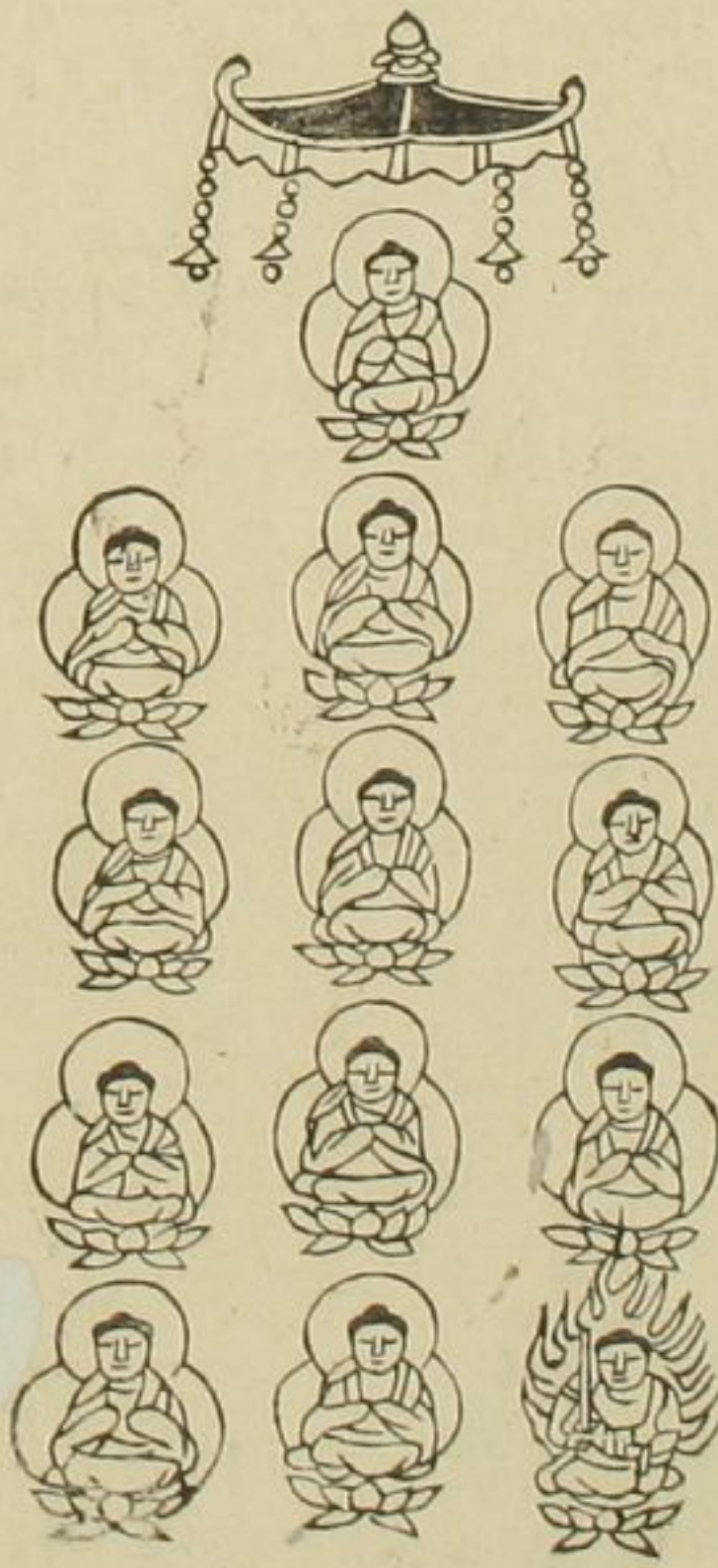


いほりーんまゆえ

あらねおんま

海東子親松片陸

電鼓



あつち

甲江の

草種

カミ

いほり



おま

園入者もねや

あつて

身れ

ひねこ

路通



や

あ

あ

あ

あ



三味線の

しり

と

嫁れ君

と



松崎
郁翁

+

竹虎

あや

夏鷹

あ

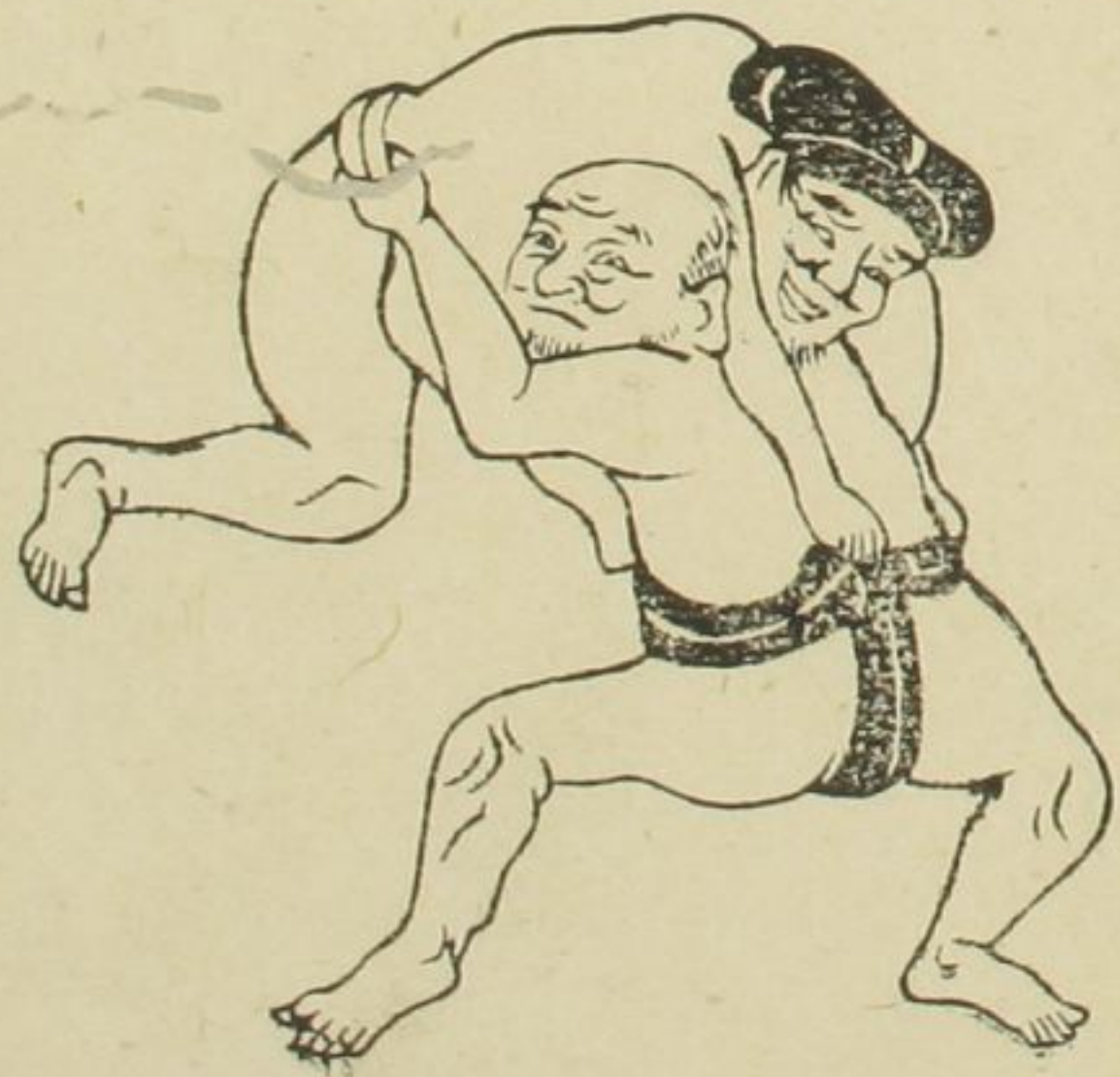
松



西角

侍負此

あやめ
子
いさよ
い



竹亭

十一

誰そよ

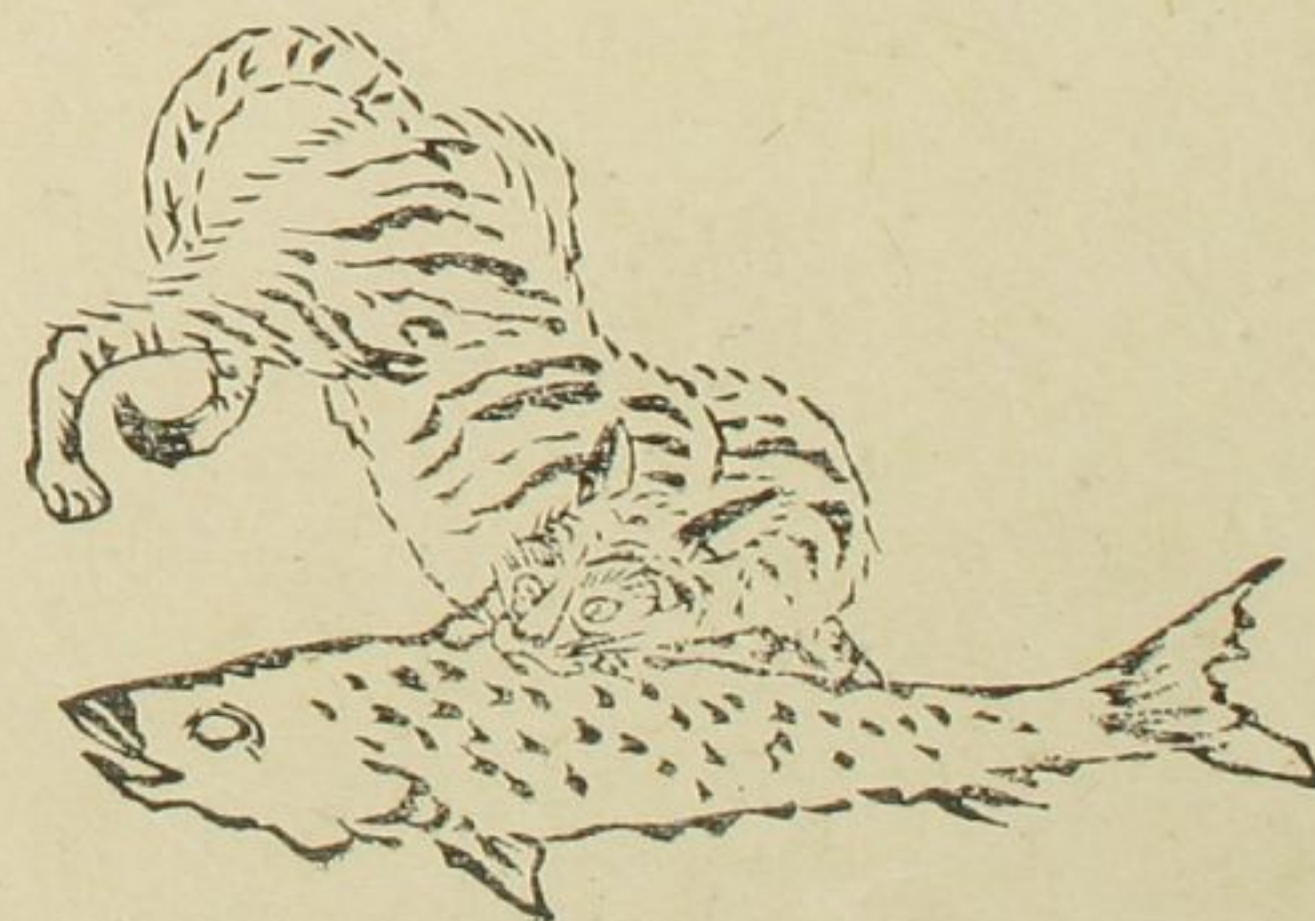
まの庭心華の宮

涼軒



藤浪又は
結良魚も
希

老松軒怪石



里石

耳ふし剃毛の二つ
これ葛草



浦(髪)了(髪)毛(傍)亭(雪)如(袖) 暮四



十三

梅子

饅頭乃木色

布少之路

冰色



第一張の

所て

すみ

踊

東歌



十

おし

人

遠



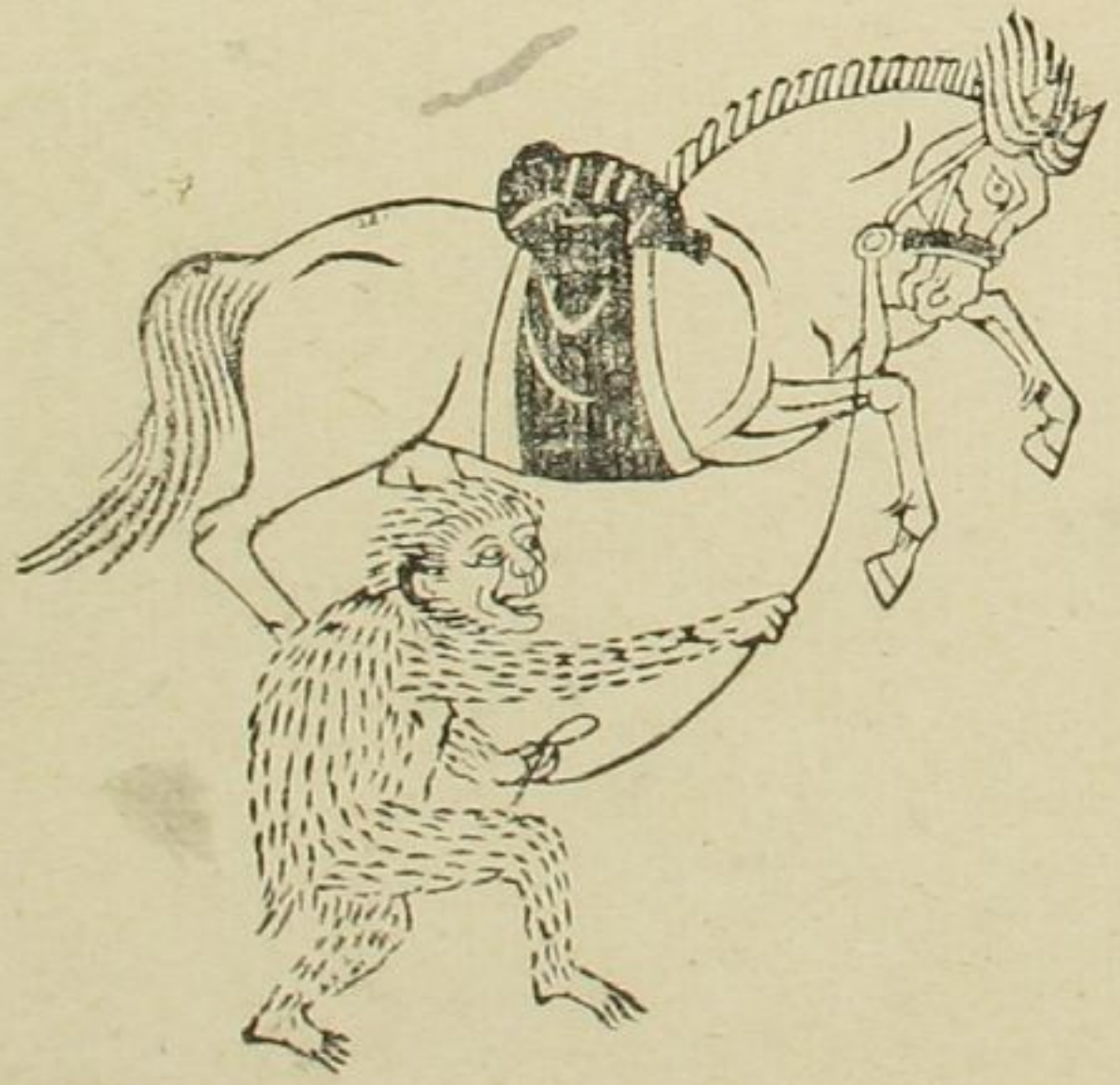
猿
舞
也

大
海

い
ま

月

乃



戸
離

糸

川

丁
成

十五

心
の
し
ら
し

海
の
し
ら
し

海
の
身

物
子





手御

吐公早張良今也



如

桶

梨乃

鬼腫

曲源一併の三女娘



景

十七

序

也

出

橋

奇

夢

志

繪

夢

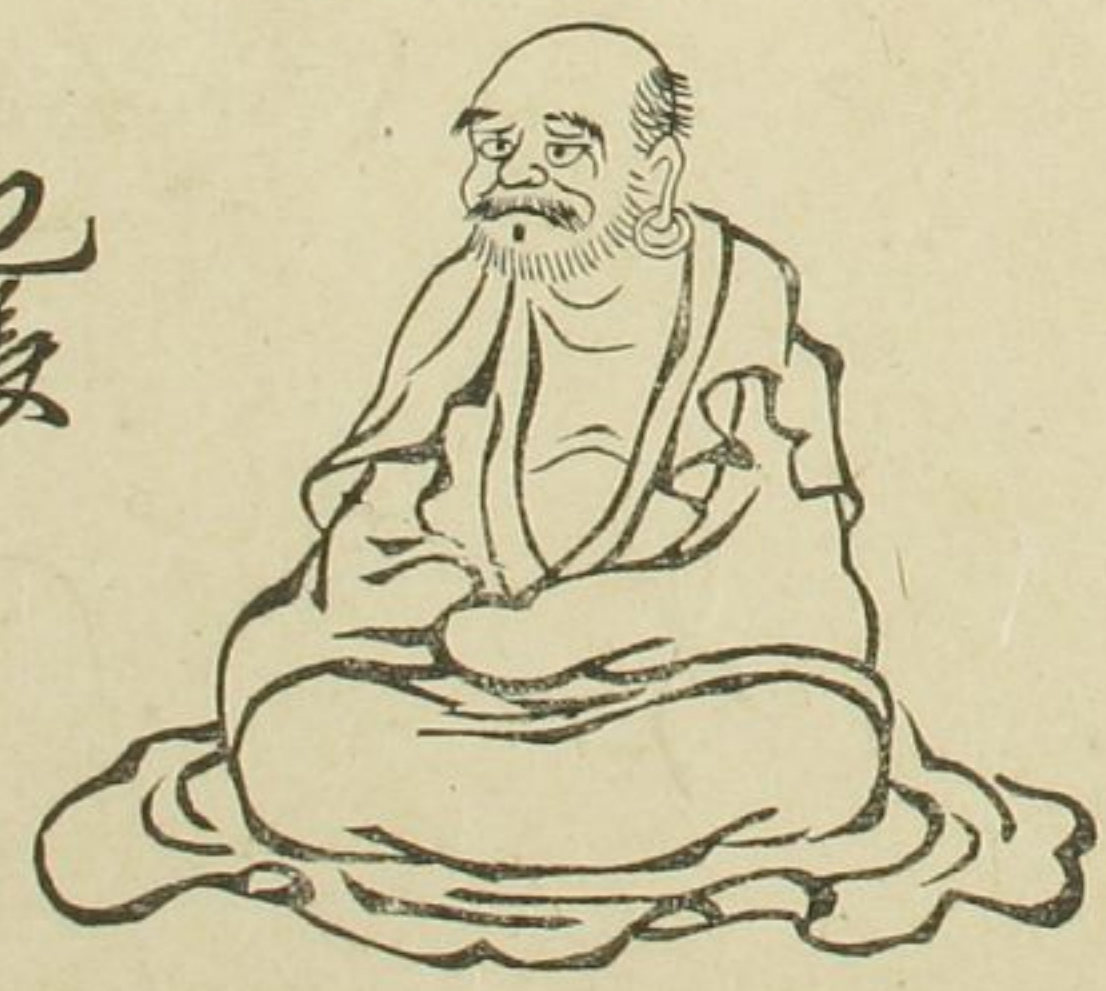
仍

重且



空 ^{ユヒ} 指 ^{カウ} 取 塚
 牡丹 亦 久
 素 与 存

也長



十儿

子 亦 也 凡 亦 記 古 大 根

吾友

此 丘 大 黑 摩 訶 羅 大 黑 等 之
 望 祚 少 之 亦 授 素 大 国 玉 之
 命 之 凡 之 亦 同 名 号 那 也
 女 方 亦 之 亦 之 亦 之



白雲如雪

三心乃

古寺遺

水石の
名

石の
名

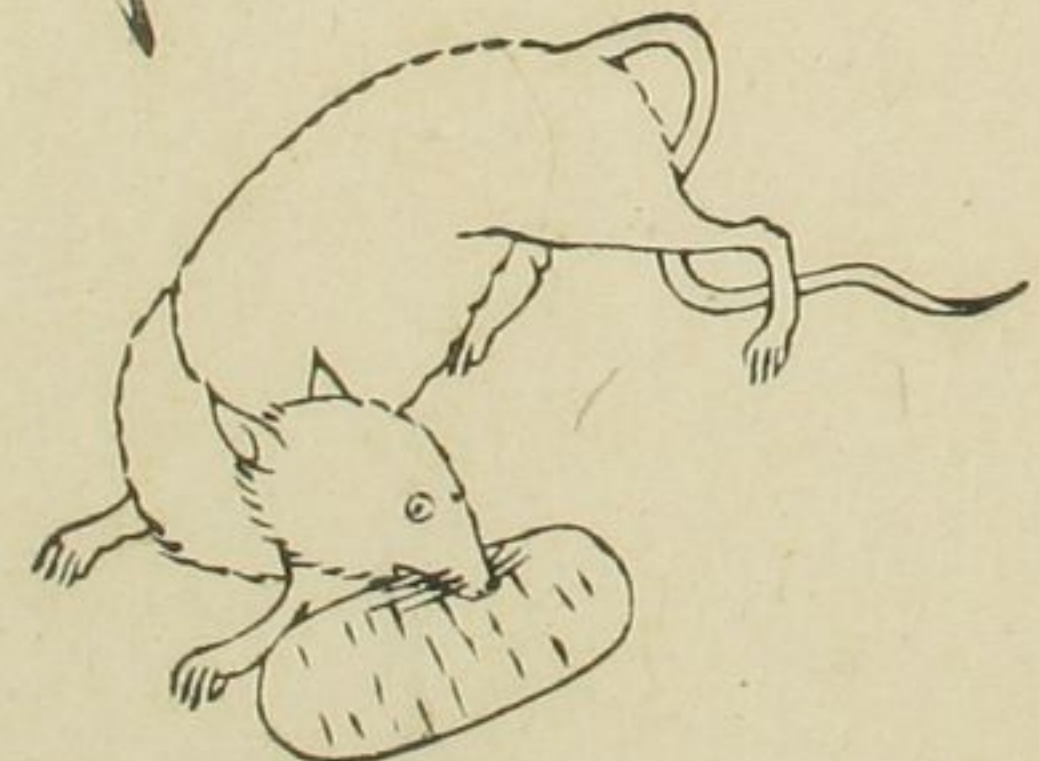


鼠毛

小
子

水
石

七
子

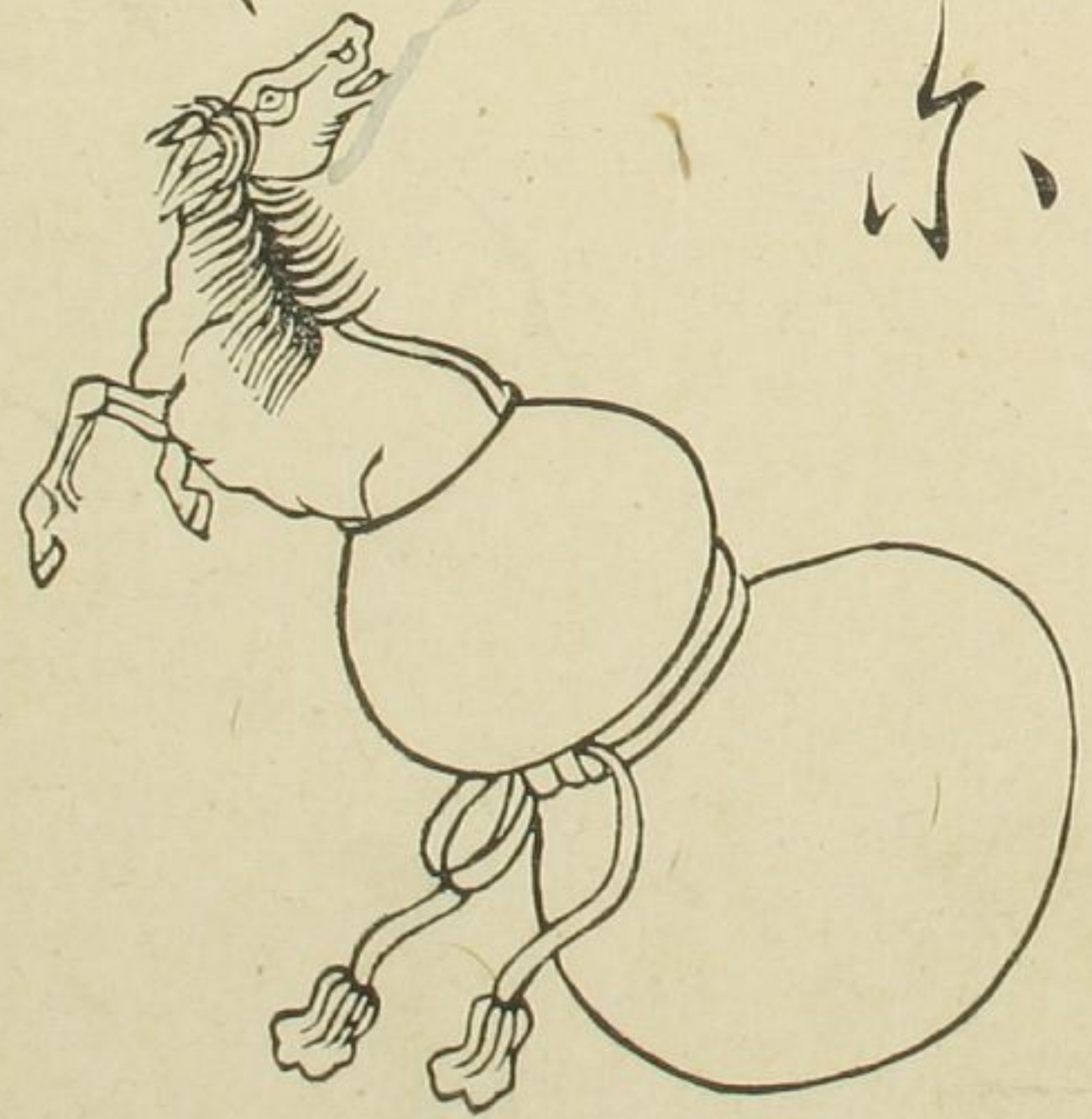


とこ河了世

之金也

康乃

か茂川尔



洗く

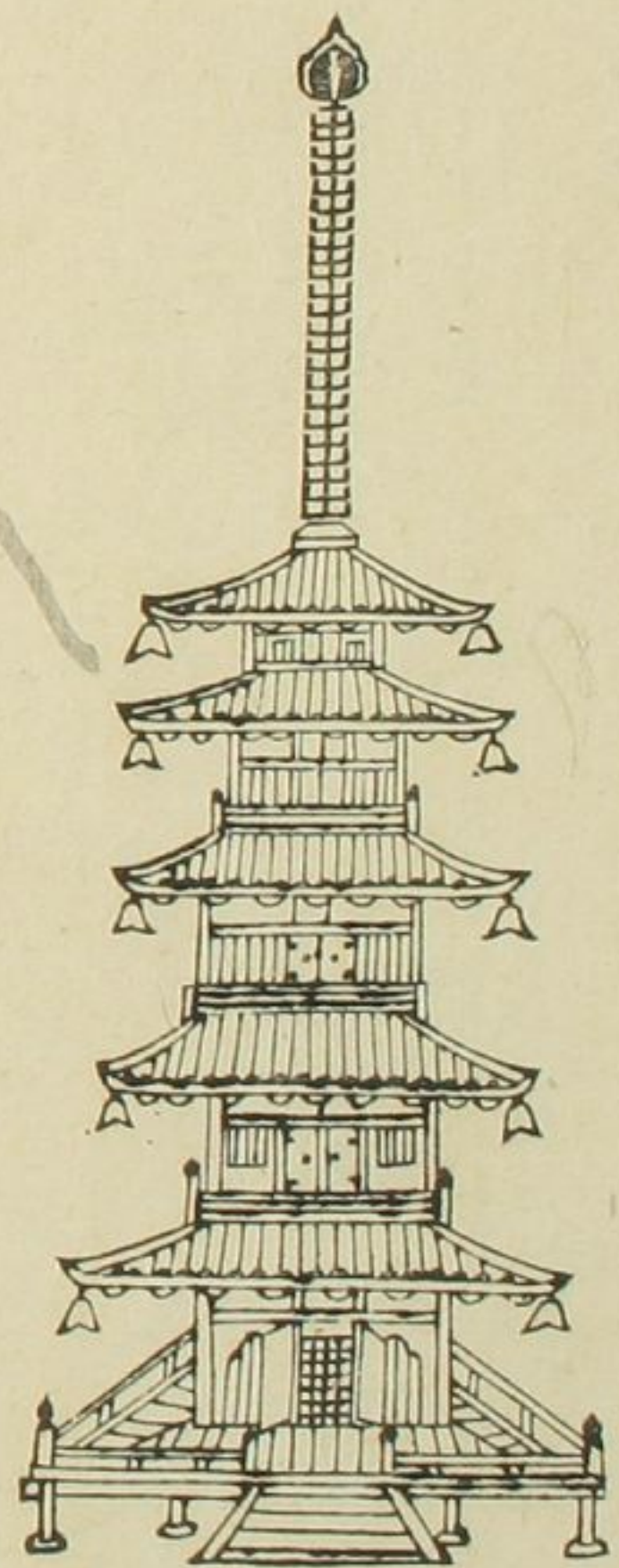
二十

三日月也

丸輪乃部く

法々石

在川



世也綿
 世綿の臂え
 子綿
 花



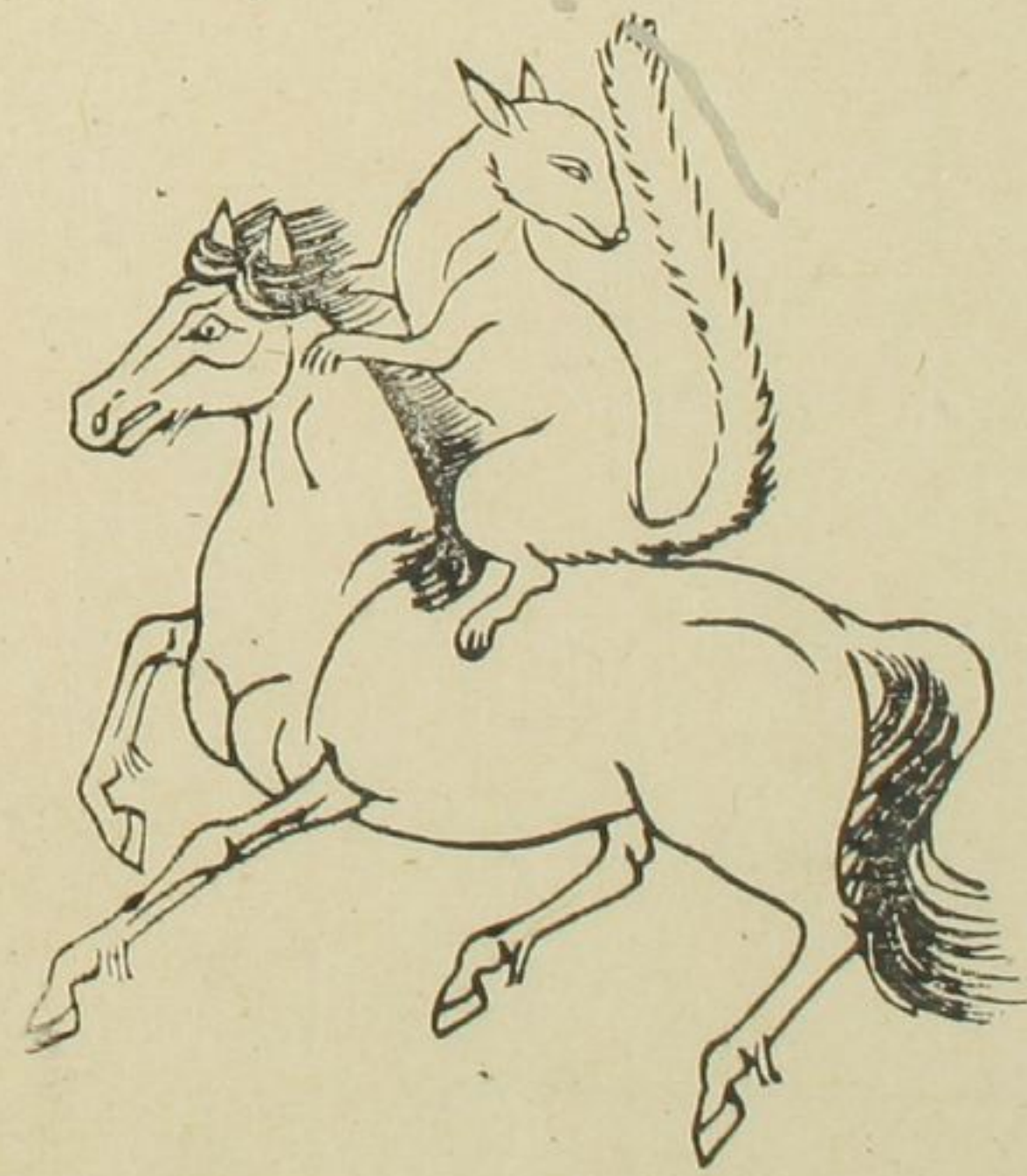
二五

茶

馬

茶

茶



茶

川之秋子

鶯頭

肩く



琴風

うさぎ

名栗

よろす代也

法使由免除

氷花



元

清田路
 の
 外
 乃
 乃



立
 吟

子
 も
 木
 子
 黄
 鶴
 之
 親
 之
 仙
 橋



友齊也

詞

門

天

系

尚白



渠之冊

峰尔

峰尔

東海月



淡々

巾を垂ぬて葉鷹
を窺ふて
三つよし

鶴乃葉を

とりかうつたぬ

つゆぬかのた



才磨

扱寸真

漸調うやういハ登あるとりて

也長

十一分の子編とがして

我黒

戸袋の塵掃捨を行なう

珍舎

下駄乃縁路の像一三ヶ月

長

てはえりまをりりて炭岩を根ら

黒

あそゆき武士乃其塵

舎

時雨人漏む鳩尾の流は長

襦きをうく初えの 黒

一甚乃松垣く淡系振まり水 舎

木綿の薄衣式了物うハ 長

白麻布く水と後の字もや 黒

下帯流して巻ととにあり 舎

櫛ハ三月七日の 鹿守 長

櫛也胡桃ハ西の葉因 黒

映しと云は 一毎の月ハ西 舎

月表冥書つみの半折也し 長

散ふの喜ねと汲て方と云は 黒

去秋梳ある葺くけをり 鞆

積少成多のやうにも遠くまで

淡々

人一倍のやうな水見

珍舎

白ひもふ作乃鏡の夕月子

在川

いしぬしやうのよのふ味

まじ

仙鶴

浪乃も完料のよふ草花塵

里右

後還廣し傘乃軒

也長

後曳乃雪のふ産して淋さハ

氷花

湯殿ふまを神なるハ神

我黒

ふと折てあ乃目所とけうり

執筆

金剛山より牡丹分存也

淡々

冠者もあま冷食頃の丁乃受 珍舎

方乃海よりえ結乃満 黒石

息月小二王つ動あつへん 仙鶴

何乃風やちかひる玉 在川

壁乃事小碎て提以嬉 皮 也長

壁て飽え筆拾り有り 氷花

朱頃や三節うぬむ花 守る 我黒

足乃基よ若草の南良 也長

丁寧小神いゝいて別と露 淡々

いつとら流るるとも果へさ 仙鶴

子濤と出せ不同小浪と小 氷花

凡矣教ハよさ千 夜 珍舎

凄くと雲のあはを晴動や 在川

佐渡ふらなうは堂と丸甥 淡々

盲目の字もあはぬ編りり 黒

刻と柘榴ハ齒並むら 我黨

殿産て乳ハは糸小雲小月 珍舎

い乃くハ屏凡子流と十書 氷花

瀬とむ二が乃粥を振岸色 也長

留河乃書ふるはむ鞆掛 黒

ウ 末人よ膝小を裁せか林不助哉 我黨

湯汲車と拾ふ撞撞 在川

冥乃舟のかりを流し居る丸甥 淡々

必と喉より地代 氷花

水鏡せよとて七草葉を

仙鶴

長閑の中に鶴ふ牛乃子

珍舎

権入の如くふかき水不_二可_一靈

杖黒

梅はもよもよ松乃弘_一夕

珍舎

やよもあもたれ月れ_二丁_一を也長

玉より梅小氣と生_二之_一ゆ_一黒

嘴の飯こちれて_二し_一れ石と成舎

は_一も_二也_一て干定高門長

そくしんは信不初々雷光黒

是や彼部吉のまどと舎

三つ山や桂馬越とそあふん長

弁天在と思ひ川とそ黒

土子のふし初とそ霞乃うん舎足袋

生い姜湯吞て痛とそ悪く長

上カミと下いそくれは角の錢お湯黒

花れあふたふ秋乃小浪舎

田子れ浦ふあ甲とそれとそ籠籠長

月ころくそあ居とそ懐黒

花風ふ板ぬくは紙お撲舎

親指こぶ離はなふはな耗はなのゆきとそひ筆

島ら、春のよき時
遠く秋をよき時

作者の 叔僕

跡合、西月

秋心後

雪舟末孫等 碩畚



